

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(220)

仮想空間を利用

近年、メタバースと呼ばれる、仮想現実（VR）技術を用いた没入感の高い3次元の仮想空間が活用されている。利用者は、自身の分身であるアバターを使って仮想空間内を自由に移動し、他人のアバターとコミュニケーションすることができる。これまでメタバースは、対戦型ゲームやアバターを使うウェブ上の交流サービスで利用されてきたが、コロナ禍を契機に活用の幅が広がった。

例えば、遠隔地から仮想空間に作られた

「街」を訪れ、催しに参加したり買い物をする。しんだりすることができ、社会のさまざまな分野で多くの人が利用する、新たな社会基盤「デジタル社会基盤メタバース」となる可能性を秘めている。

年齢や外見といった身体の制約や場所の制約から解放し、新たな身体であるアバターを通じて、これまでできなかった活動を可能にする。この特徴を生かして、社会のさまざまな分野で多くの人が利用する、新たな社会基盤「デジタル社会基盤メタバース」となる可能性を秘めている。

「街」を訪れ、催しに参加したり買い物をする。しんだりすることができ、社会のさまざまな分野で多くの人が利用する、新たな社会基盤「デジタル社会基盤メタバース」となる可能性を秘めている。

年齢や外見といった身体として活用するために、誰かが「安心・安全」や視覚などに制約がある人から解放し、新たな身体であるアバターを通じて、これまでできなかった活動を可能にする。この特徴を生かして、社会のさまざまな分野で多くの人が利用する、新たな社会基盤「デジタル社会基盤メタバース」となる可能性を秘めている。

年齢や外見といった身体として活用するために、誰かが「安心・安全」や視覚などに制約がある人から解放し、新たな身体であるアバターを通じて、これまでできなかった活動を可能にする。この特徴を生かして、社会のさまざまな分野で多くの人が利用する、新たな社会基盤「デジタル社会基盤メタバース」となる可能性を秘めている。


自由に移動し、他人のアバターとコミュニケーションすること

年齢や外見といった身体として活用するために

誰かが「安心・安全」や視覚などに制約がある人から解放し

年齢や外見といった身体として活用するために

メタバース 新たな社会基盤へ



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター フェロー（システム・情報科学技術ユニット） 福井 章人

岡山大学大学院工学研究科修士。電気機器メーカーに入社後、有線系通信技術の研究開発、第3世代/第4世代移動体通信技術の研究開発・標準化、クラウドサービスの企画・開発に従事。2021年より現職。

デジタル社会基盤メタバース

誰もが「安心・安全」に参加でき、誰もが活動できる「包摂性」を備えた「新たな社会基盤」

特徴	現実の身体（年齢、外見など）、場所の制約からの解放
	アバターを使ったコミュニケーション
	「安心・安全」と「包摂性」

研究開発成果を適用

今後取り組むべき研究開発課題	アバターを介した人の認知・行動の理解
	アバターを使った活動が現実の人の意思疎通や行動に与えるメカニズムを解明
技術開発	法・規範
	アバターを使った活動の安心・安全、人の行動の規則や基礎となる
	包摂性に関する問題に対処 道徳・倫理などの規範を形成

JST研究開発戦略センター「社会基盤としてのメタバースの可能性と課題」（近日Web公開）を基に作成